

り遡行開始。

すぐに3mの滝。そしてその上は石積み的人工河川となり、レンガ作りのトンネルでJR奥羽本線の下を潜り抜けている。トンネルを出た所で、ちょっと地図を見ていたら、すぐそばの斜面にカモシカが姿を見せた。

このあと沢はナメが断続的に出てくる。しかし、滝は3mの小滝が1つだけ。ここはシャワーで楽に直登して上に出る。沢幅がだんだん狭くなってゆき、ついには小さな流れにすぎなくなってきた。遡行を開始してから45分、送電線の巡視路に出会った所で遡行終了とする。

(記)

[タイム] 出合(10:10)→遡行終了(10:55)

飯豊連峰北股川

1990年8月11～15日

L

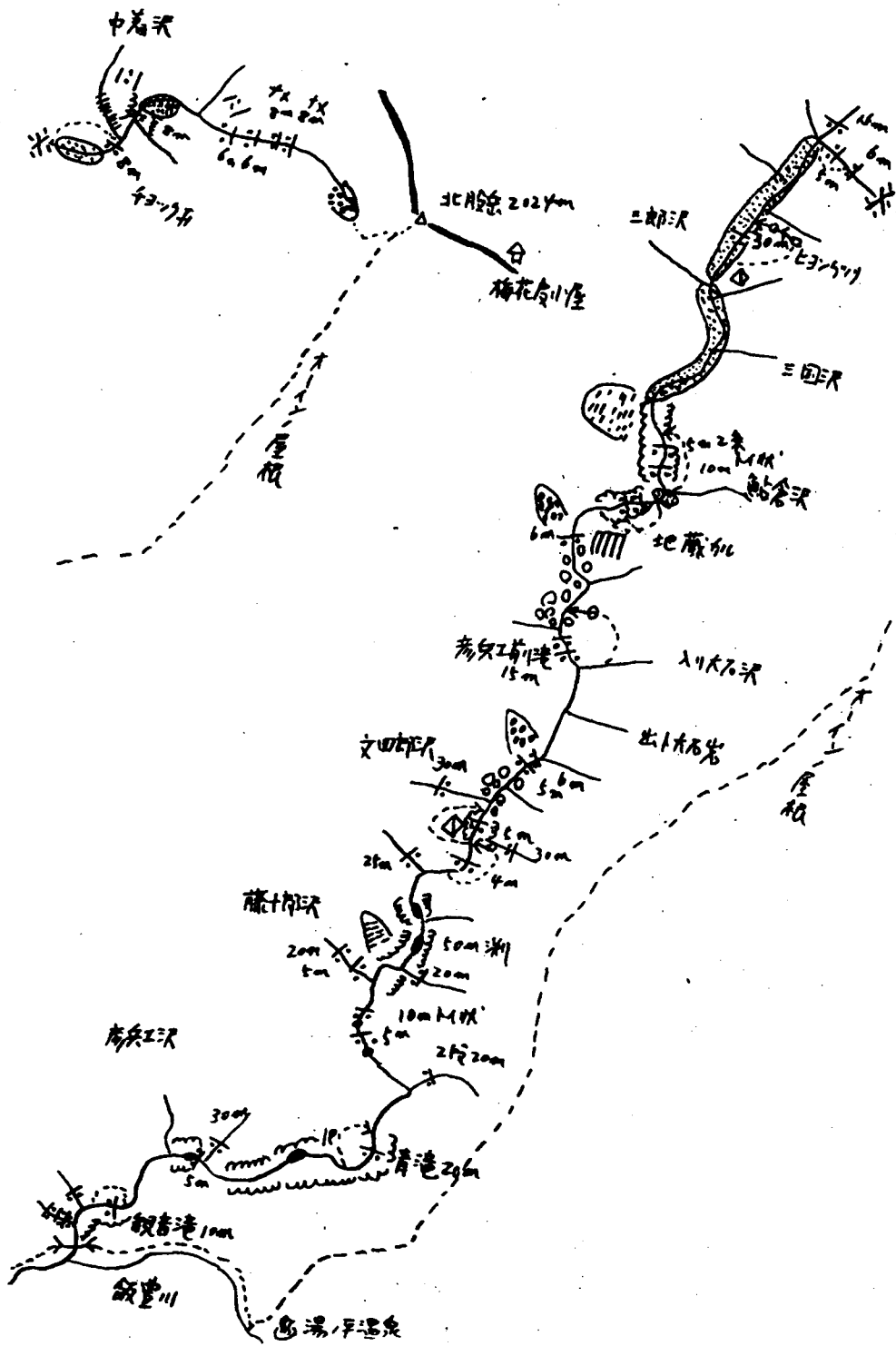
8月11日 福島(20:00)⇒加治川ダム(23:35)

8月12日 加治川ダム(7:10)→北股川出合(7:45)→観音滝(8:00)→彦兵エ沢出合(8:25)→青滝(9:00)→藤十郎沢出合(10:40)→ビバーク地(15:45)

夜半雨が降ったが、濁りや増水はなし。7:45入溪。ゴーロ帯を進む。左手の滝をかけた支沢2本を過ぎると、7mの観音滝。左手草付を登り、滝上部に降りる。この後はゴーロ帯が続くが、左手からの彦兵エ沢出合を過ぎるとゴルジュとなり、淵が現われ、泳ぎや波渉で通過する。

青滝20mは、左側壁を1Pで登り、落口ヘクライミングダウン。ここの通過には1時間半を要した。この後は15～20mの滝をかける支沢が現われる。本流には5m前後の淵をもった滝が出て来るが、側壁に取り付いて通過できる。

10時40分、2段25mの滝をかける藤十郎沢出合に達する。このあたりからゴルジュは狭まり、泳ぎが多くなる。ゴルジュ内の滝10m、4mは、右手を2時間の



捲きで通過。

右手から30mの滝をかける支沢の出合を過ぎると、本流には5m滝がかかる。簡単には突破できそうにもない滝。今日の行程はこまでとし、スラブがハング状にせりだした川原にテントを張り、ビバーク。盛大に焚火を燃やし、濡れたものを乾かした。

8月13日 ビバーク地(6:10)→文四郎沢出合(6:40)→彦兵エ滝(7:30)→地藏カル(10:05)→鮎倉沢出合(13:30)→三国沢出合(14:55)→三郎沢出合(15:55)→ビバーク地(16:30)

ビバーク地から左手スラブを高捲き20分で、5m滝を突破。文四郎沢出合付近からは巨岩のゴロ帯となり、中に5m前後の滝がかかる。彦兵エ滝15mは、手前右岸の入り大石沢から2時間15分をかけての高捲き、懸垂下降1回で沢に戻る。巨岩帯の中の滝を越えてゆくと、200mくらいの高さのある地藏カルの岩壁が現われる。ゴルジュの4m滝は、右手草付スラブを1Pで登り、ザイル確保でトラバースし、クライミングダウン。

やがてスノーブリッジが現われる。ゴルジュ内の10mと5mの滝は、鮎倉沢から1時間の高捲き、1Pの懸垂下降で降りる。それ以降は雪渓が続く。雪渓が切れた所には滝が現われ、高捲きとなる。雪渓の厚い部分は20mくらいはありそうに思える。雪渓歩きで距離を稼ごうと思ったが、三郎沢出合の先で切れ、そこで今日の行程は終了とする。三郎沢を見渡す雪渓から15m程上の草付の岩場にテントを張ってビバークする。

8月14日 ビバーク地(6:30)→鋭角屈曲部(9:20)→巾着沢出合(11:00)→尾根(12:55, 13:15)→登山道(13:30)→北股岳(13:40)→洗濯平ビバーク地(14:30)

ビバーク地から2時間の高捲き。雪渓の切れ目には10m滝、30mヒョングリ滝が見える。懸垂下降2回で、ヒョングリ滝上部に降りる。

ほぼ直角に曲がる屈曲部手前まで雪渓が続く。スノーブリッジの崩壊箇所も見られた。草付のスラブの捲きを繰り返して、巾着沢との出合到着。もう水量は半減し、源流の様相である。滝が連続して現われ、高度も増してくる。

最後はガレ場をつめ、北股岳からの支稜線上のお花畑に出て、適行終了。

8月15日 洗濯平ビバーク地(6:50)→湯ノ平温泉(10:00, 10:45)→加治川ダム(11:45)

(記・)